

亀水・東海財務局長が講演 明快、丁寧、謙虚な語り口 好評

月刊・東海財界を発行する中部財界フォーラム社主催の第31回東海財界倶楽部例会が6月6日、名古屋市東区のホテルオークラレストランで開かれた。東海財務局の亀水（かめすい）晋局長が「我が国の経済・財政の現状と課題」をテーマに講演、「管内の景気はすごくいい、国の財政は悪い」と率直でわかりやすく解説した。

氏によると、管内の経済情勢は今年4月判断で「緩やかに回復している」とし、6期連続で同一判断。これは全国比較で「拡大している」という沖縄に次ぐ好調さ。その根拠を、個人消費、生産活動、雇用情勢、設備投資など6項目について産業動態統計や鉱工業生産指数、有効求人倍率などの数字をもとに丁寧に解説した。「東海経済はやはり自動車関連が景気を引っ張っている。勝ち残りを賭けた積極的な投資が行われており、今後も緩やかな拡大が続くとみられる」と話した。

国家財政については、一般会計税収、歳出総額の推移グラフをもとに解説。平成31年度(政府案)の一般会計税収約62兆円に対し、約100兆円の歳出で差し引き40兆円近くの不足額。それを賄う借金としての公債は計32兆円でまだ8兆円が足りないという状況を説明。歳出の内訳で最も多く増えたのが社会保障費であることもグラフで示した。その社会保障費は、受益者負担の保険料でまかなう社会保険方式を採りながら高齢者医療・介護給付費の5割を公費で賄っており、高齢化社会の進行でこの給付費が急増し、結果的に公費の負担増となっている。「これを賄う財源を確保できないため給付と負担のバランスが損なわれ将来世代に負担を先送りすることになり、財政悪化の要因となっている」といい、消費税の引き上げで社会保障費の安定財源を確保せざるを得ないとした。また、消費税率引き上げに伴う対策として2.



講演を行う東海財務局・亀水晋局長



乾杯の発声をするホクセイ・山下三男氏

3兆円の予算措置、税制支援策を講じることも強調した。

講演の最後に、最近注目されているMMT (Modern Monetary Theory) についても言及。要約するなら「国民が望むなら政府は際限なく国債を発行し赤字財政を続けられる」といった理論だが、亀水氏は麻生財務大臣や黒田日銀総裁の反論答弁を紹介し「MMTなど決して信じないようにして頂きたい」と強調した。

◎ ◎

「景気がよい、と解説しますが、数字はウソをつきません。だから決して忖度（そんたく）ではありません」と、亀水氏の講演はユーモアたっぷりに始まった。その話ぶりは、明快、丁寧かつ控えめ。講演前は「財務省といえばチョーお堅い役所。天下国家を論ずる難しい話になるのかな」といった声も聞かれたが、あにはからんや数字を駆使しながらも決して上から目線ではない語り口に出席者からは「好感を持てる話し方で、わかりやすかった」と異口同音の感想だった。(英)